令和６年度支部事業実施概要

（令和7年3月31日現在）

日本赤十字社 山形県支部
Japanese Red Cross Society

1　国内災害救護

「災害から人々のいのちと健康を守ること」を軸として、災害時の初動救護活動を迅速・的確に行うための人材の育成に努めるとともに器材の整備を行い、地域においては防災・減災に関する知識の普及啓発活動を推進し、災害対応能力の強化を図る。

⑴　医療救護班の編成と防災ボランティアの登録

県内9か所の自治体病院等に赤十字医療救護班を編成するとともに、赤十字救急法等指導員からなる防災ボランティアを登録している。

①　医療救護班の編成状況

地区	救護班名	救護班員の登録者						こころのケア指導者
		医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事	計	
村山	日赤山形県立中央病院救護班	4 名	2 名	5 名	1 名	2 名	14 名	1 名
	日赤山形市立病院済生館救護班	3 名	1 名	8 名	2 名	4 名	18 名	1 名
	日赤北村山公立病院救護班	2 名	2 名	4 名	2 名	3 名	13 名	2 名
	日赤山形県立河北病院救護班	1 名	1 名	2 名		2 名	6 名	1 名
最上	日赤山形県立新庄病院救護班	2 名	1 名	4 名		3 名	10 名	1 名
置賜	日赤米沢市立病院救護班	2 名	1 名	2 名	1 名	2 名	8 名	1 名
	日赤公立置賜総合病院救護班	1 名	1 名	2 名	1 名	2 名	7 名	1 名
庄内	日赤鶴岡市立荘内病院救護班	1 名	1 名	4 名		2 名	8 名	1 名
	日赤日本海総合病院救護班	1 名	1 名	2 名	1 名	1 名	6 名	2 名
合　計		17 名	11 名	33 名	8 名	21 名	90 名	11 名

②　防災ボランティアの登録状況

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合　計
39名	1名	10名	14名	64名

⑵　災害救護対応力の強化

①　地域防災訓練への参加

県及び市が主催する防災訓練に参加し、地域の防災関係機関と協働して災害発生時の初動期対応や相互連携について確認を行い、知識及び技術の向上に努めた。

No.	訓練名	期　日	場　所	参加者
1	村山市防災図上訓練	7月10日（水）	農村環境改善センター（村山市）	支部職員　2 名
2	山形県・長井市合同総合防災訓練	9月8日（日）	長井市市街地（長井市）	日赤公立置賜総合病院救護班　6 名 日赤米沢市立病院救護班　2 名 救急法ボランティア指導員　1 名 支部職員　4 名 合 計　13 名
3	令和6年度DMAT参集訓練（参観）	10月5日（土）	庄内空港（酒田市）	支部職員　1 名
4	米沢市総合防災訓練	10月6日（日）	米沢市立万世小学校（米沢市）	日赤米沢市立病院救護班　5 名 支部職員　3 名 合 計　8 名
5	東根市総合防災訓練	10月20日（日）	認定こども園おだしま　広場（東根市）	日赤北村山公立病院救護班　7 名 支部職員　2 名 合 計　9 名

No.	訓練名	期　日	場　所	参加者
6	村山市防災訓練	10月27日（日）	村山市立 冨本小学校 （村山市）	日赤北村山公立病院救護班　7 名 救急法ボランティア指導員　1 名 支部職員　2 名 合 計　10 名
7	令和6年度山形県災害対策本部事務局図上訓練	11月15日（金）	山形県庁 （山形市）	支部職員　1 名
8	スキー場安全合同総合訓練	12月17日（火）	蔵王猿倉 スキー場 （上山市）	支部職員　1 名
9	令和6年度山形県国民保護共同図上訓練	1月15日（水）	山形県庁 （山形市）	支部職員　2 名

搬送された傷病者のトリアージ

傷病者の状態に応じて処置を実施

② 第1ブロック（北海道・東北）支部合同災害救護訓練への参加

学習訓練ではEMIS（広域災害・救急医療情報システム）やJ-SPEED（災害診療記録）などの災害救護の知識の習得を行ったほか、練習資材を用いた図上での避難所アセスメント演習を行った。また、実働訓練では仮想避難所の巡回診療及びアセスメント（調整）等を行うなど、災害発生を想定した訓練を実施し、災害救護技術の向上及び広域での連携強化に努めた。

訓練名	期　日	場　所	参加者
日本赤十字社 第1ブロック支部 合同災害救護訓練	10月4日（金） ～5日（土）	北海道看護大学 災害対策教育センター （北海道北見市）	日赤県立河北病院救護班　5 名 支部職員　4 名 合 計　9 名

避難所アセスメント演習

仮想避難所における巡回診療訓練

③ 各種会議・研修会への救護班及び支部職員の派遣

各種会議・研修会に救護班及び支部職員を派遣し、知識の向上に努めた。

No.	研修・会議名	期　日	場　所	参加者
1	山形県災害ボランティア支援ネットワーク連絡会(Web)	4月22日(月)	日赤県支部(山形市)	支部職員　1 名
2	救護業務打合せ会議	4月25日(木)	日赤県支部(山形市)	日赤各病院救護班員　14 名 支部職員　5 名 合 計　19 名
3	令和6年度救護業務等担当課長会議(Web)	5月10日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員　1 名
4	令和6年度救護業務担当者研修会(Web)	5月10日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員　2 名
5	令和6年度災害ボランティア支援ネットワーク連絡会　災害ボランティア支援本部設営訓練(Web)	5月16日(木)	日赤県支部(山形市)	支部職員　1 名
6	第1回防災教育事業主任指導者研修(Web)	5月17日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員　1 名
7	防災気象情報等に関する連絡会(Web)	5月22日(水)	日赤県支部(山形市)	支部職員　1 名
8	第1回救急救命率向上対策専門部会(Web)	6月27日(木)	日赤県支部(山形市)	支部職員　1 名
9	日赤災害医療コーディネート研修会	7月5日(金)～6日(土)	日赤本社(東京都)	支部職員　1 名
10	第2回防災教育事業指導者研修及びフォローアップ研修	9月4日(水)～5日(木)	日赤本社(東京都)	支部職員　1 名
11	国内災害救護共有サイトの試験的運用にかかる説明会(Web)	9月13日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員　1 名
12	全国赤十字救護班研修会	9月21日(土)～22日(日)	石巻赤十字病院(宮城県)	日赤山形県立新庄病院救護班　6 名
13	こころのケア指導者養成研修会	10月9日(水)～10日(木)	日赤本社(東京都)	日赤山形市立病院済生館 日赤日本海総合病院 各救護班員　2 名
14	山形県国民保護共同図上訓練	1月15日(水)	山形県庁(山形市)	支部職員　2 名
15	日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修会(Web)	2月15日(土)	日赤県支部(山形市)	支部職員　2 名
16	山形県災害ボランティア支援ネットワーク連絡会(Web)	2月28日(金)	山形県庁(山形市)	支部職員　1 名

④ 日赤山形県支部主催災害救護訓練(学習訓練)の実施

赤十字救護班としての基本的な行動等を学習し、救護班の災害対応力の向上に努めた。

No.	訓練名	期　日	場　所	参加者
1	日赤山形県支部災害救護訓練(Web学習訓練)	5月21日(火)～6月28日(金)	各病院及び日赤県支部(山形市他)	日赤各病院救護班員　78 名

⑤ 災害救援物資の輸送にかかる協力体制の強化

災害時に迅速に救援物資を輸送することを目的に、公益社団法人 山形県トラック協会所有倉庫に毛布を分置保管するとともに、支部の要請に基づき、同協会より緊急時の輸送協力をいただくこととなった。

保管場所	保管物資	保管開始日
公益社団法人　山形県トラック協会倉庫(天童市 トラック協会備蓄倉庫)	被災者配布用毛布　1,100 枚	令和6年5月16日から

⑥ 特殊無線技士資格の取得

災害時における円滑な無線通信を行うにあたり、無線設備の操作にかかる知識・技術の習得のため、支部職員が第三級陸上特殊無線技士資格を取得した。

No.	研修名	期　日	場　所	参加者
1	第三級陸上特殊無線技士試験	3月26日（水）	山形県建設会館 （山形市）	支部職員　2 名

⑶ 災害救護活動用器材の整備

野外炊飯器、ワンタッチテントの配備

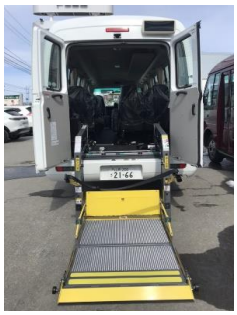
災害時に迅速に救護活動を実施するため、野外炊飯器、ワンタッチテントを下記の地区分区へ配備した。

野外炊飯器配備先　(2)	酒田市地区、金山町分区
ワンタッチテント配備先　(5)	酒田市地区、天童市地区、尾花沢市地区、舟形町分区、小国町分区

⑷ 救援車の設置助成

災害時における地域住民の避難・救護活動、その他赤十字事業の推進を図るため、地区分区に救援車設置に係る経費を助成した。

助成先	南陽市地区
助成額	3,000,000円



⑸ 赤十字防災セミナーの実施

自治会や企業、赤十字奉仕団の依頼を受け、指導者を派遣し、非常災害時の炊き出し実習や防災・減災の知識について学ぶ防災セミナーを実施した。

No.	行事名	期　日	場　所	内　容	参加者
1	T＆日本メンテ開発㈱ 防災セミナー	4月5日（金）	新堀 コミュニティ 防災センター （酒田市）	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験	T＆日本メンテ開発社員 42 名 支部職員 2 名 合 計 44 名
2	鶴岡産直組合しゃきっと 防災セミナー	4月14日（日）	鶴岡産直 組合 しゃきっと （鶴岡市）	・非常食づくり研修 ・災害救援物資の展示	組合員親子 30 名 支部職員 1 名 奉仕団支部指導講師 1 名 合 計 32 名
3	児童遊戯施設コパル 防災セミナー	4月23日（火）	児童遊戯 施設コパル （山形市）	・災害への備え ・非常食作り研修	施設社員他 15 名 支部職員 1 名 合 計 16 名
4	㈱新東京ジオ・システム 防災セミナー	6月14日（金）	アンジェリーナ （天童市）	・災害への備え ・非常食づくり研修	社員他 50 名 支部職員 2 名 合 計 52 名
5	米沢市立第五中学校 防災セミナー	6月14日（金）	米沢市立 第五中学校 （米沢市）	・防災講話 ・救急法講習体験 ・災害救援資器材の展開体験 ・防災かるた	中学生 24 名 米沢市赤十字奉仕団 8 名 支部職員 2 名 合 計 34 名
6	村山教育事務所主催 村山地区中学生対象 防災セミナー	6月23日（日）	山形県 青年の家 （天童市）	・新聞スリッパ作り ・災害救援資器材の展開体験	村山地区中学生 6 名 支部職員 2 名 合 計 8 名
7	寒河江市西村山郡 在宅医療・介護連携 支援室たんぽぽ主催 防災セミナー	7月5日（金）	寒河江市 ハートフル センター （寒河江市）	・ひなんじょたいけん ・日赤活動紹介	地域包括ケア担当者 20 名 支部職員 1 名 合 計 21 名
8	酒田市本楯赤十字 奉仕団防災セミナー	7月16日（火）	本楯 コミュニティ センター （酒田市）	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験 ・救援物資展示紹介	酒田市本楯赤十字奉仕団 30 名 支部職員 2 名 合 計 32 名

No.	行事名	期　日	場　所	内　容	参加者
9	南陽市社会福祉協議会主催 市内小学生親子対象 防災セミナー	7月20日（土）	健康長寿 センター （南陽市）	・おうちのキケン ・災害救援資器材の展開体験 ・救援物資展示紹介	小学生親子　28 名 支部職員　2 名 合 計　30 名
10	山形県看護協会 防災セミナー	7月30日（火）	山形県 看護協会 （山形市）	・ひなんじょたいけん ・能登半島地震から学ぶ避難所づくり研修 ・災害救援資器材の展開体験	看護協会関係者　50 名 支部職員　5 名 合 計　55 名
11	尾花沢市社会福祉協議会 主催　市内小中学生対象 防災セミナー	8月1日（木）	老人福祉 センター 東光館 （尾花沢市）	・家具安全対策ゲーム ・おうちのキケン ・災害救援資器材の展開体験 ・非常食づくり研修	市内小中学生　15 名 尾花沢市赤十字奉仕団　7 名 支部職員　4 名 合 計　26 名
12	村山教育事務所主催 最上管内中学生対象 防災セミナー	8月8日（木）	ゆめりあ （新庄市）	・7月25日からの大雨災害での活動紹介 ・非常持ち出し品ゲーム ・災害救援資器材の展開体験	最上管内中学生　6 名 支部職員　2 名 合 計　8 名
13	児童遊戯施設コパル 防災セミナー	8月8日（木）	児童遊戯 施設コパル （山形市）	・災害救援資器材の展開体験	施設利用者　20 名 支部職員　2 名 ボランティア指導者　1 名 合 計　23 名
14	寒河江生協防災セミナー	8月20日（火）	寒河江市 西部公民館 （寒河江市）	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験 ・非常食づくり研修	寒河江生協こーぷ委員　11 名 支部職員　1 名 合 計　12 名
15	西村山地区建設店社 協会　防災セミナー	8月23日（金）	寒河江 西村山 建設会館 （寒河江市）	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験	建設店社協会員　30 名 支部職員　1 名 合 計　31 名
16	川西町防災訓練 防災セミナー	8月25日（日）	川西町立 大塚小学校 （川西町）	・災害救援資器材の展開体験 ・救援物資、活動パネル展示紹介	小学校児童　90 名 支部職員　2 名 名 合 計　92 名
17	上山市社会福祉協議会主催 地域サロン関係者対象 防災セミナー	9月2日（月）	上山市 保健 センター （上山市）	・7月25日からの大雨災害での活動紹介 ・非常持ち出し品ゲーム ・災害救援資器材の展開体験 ・防災セミナー内容紹介	市内サロン関係者　20 名 支部職員　1 名 合 計　21 名
18	山形市南町内会 防災セミナー	9月8日（日）	山形市南 市民プール （山形市）	・7月25日からの大雨災害での活動紹介 ・非常食づくり研修 ・災害救援資器材の展開体験	町内防災会員　45 名 支部職員　1 名 名 合 計　46 名
19	総合スポーツクラブ トップロード 防災セミナー	10月3日（木）	山交ビル （山形市）	・災害への備え	社員　9 名 支部職員　1 名 合 計　10 名
20	酒田市第三民児協 防災セミナー	10月9日（水）	日赤山形 ロジスティクス センター （山形市）	・災害への備え ・7月25日からの大雨災害への活動紹介 ・災害救援資器材の展開体験	酒田市第三民児協委員　18 名 支部職員　1 名 合 計　19 名
21	飯豊町椿駅前自治会 防災セミナー	10月20日（日）	椿駅前 公民館 （飯豊町）	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験	椿駅前自治会員　16 名 支部職員　1 名 合 計　17 名
22	山形レスキュー・サポート バイク赤十字奉仕団・ 村山市戸沢赤十字奉仕団 交流防災セミナー	11月10日（日）	地域市民 センター （村山市）	・災害救援資器材の展開体験	山形RSB赤十字奉仕団員及び村山市戸沢赤十字奉仕団員　26 名 支部職員　1 名 合 計　27 名
23	上山市金生みよしサロン 防災セミナー	11月12日（火）	金生地区 公民館 （上山市）	・7月25日からの大雨災害への活動紹介 ・災害救援資器材の展開体験 ・非常食づくり研修	サロン関係者　25 名 支部職員　1 名 合 計　26 名

No.	行事名	期　日	場　所	内　容	参加者
24	山形市内表町内会 防災セミナー	11月16日(土)	内表生活 改善センター (山形市)	・赤十字活動紹介 ・災害への備え ・非常食づくり研修	町内会員　23 名 支部職員　1 名 合 計　24 名
25	金生一区自主防災会 防災セミナー	11月17日(日)	金生地区 公民館 (上山市)	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験 ・救急法講習	自主防災会員　25 名 支部職員　1 名 合 計　26 名
26	寒河江生協防災セミナー	11月27日(水)	寒河江生協 寒河江 ステーション (寒河江市)	・赤十字活動紹介 ・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験 ・非常食づくり研修	寒河江生協くらし分野委員　20 名 支部職員　1 名 合 計　21 名
27	川西町玉庭地区 防災セミナー	12月4日(水)	川西町 玉庭地区 交流センター (川西町)	・非常食づくり研修 ・赤十字奉仕団の活動紹介	地域住民・日赤協賛委員　15 名 支部職員　1 名 奉仕団支部指導講師　1 名 合 計　17 名
28	中川地区食生活改善 推進協議会防災セミナー	12月6日(金)	中川地区 公民館 (上山市)	・非常食づくり研修	上山市食生活改善推進員　16 名 支部職員　1 名 奉仕団支部指導講師　1 名 合 計　18 名
29	山形県農業協同組合 中央会防災セミナー	12月9日(月)	協同の杜 JA研修所 (山形市)	・赤十字活動紹介 ・災害救援資器材の展開体験 ・救援物資展示紹介	JA女性部長　40 名 支部職員　1 名 合 計　41 名
30	大蔵村比良稲沢地区 防災セミナー	12月10日(火)	比良稲沢 地区公民館 (大蔵村)	・災害図上訓練	地域サロン高齢者　15 名 支部職員　2 名 合 計　17 名
31	総合スポーツクラブ トップロード 防災セミナー	12月11日(水)	山交ビル (山形市)	・災害への備え ・救急法講習	トップロード社員他　30 名 支部職員　2 名 合 計　32 名
32	山形県地域包括ケア推進 センター防災セミナー	12月13日(金)	山形県産業 創造支援 センター (山形市)	・7月25日からの大雨災害への活動紹介 ・防災セミナー内容紹介	地域包括ケア推進センター 参与団体関係者　30 名 支部職員　1 名 合 計　31 名
33	鶴岡市大山自治会 防災セミナー	12月14日(土)	大山 コミュニティ センター (鶴岡市)	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験	大山自治会員　40 名 支部職員　1 名 合 計　41 名
34	中山町総務広報課 防災安全対策室 防災セミナー	12月15日(日)	中山町役場 (中山町)	・災害への備え	消防団員　35 名 支部職員　1 名 合 計　36 名
35	山形県立置賜農業 高等学校防災セミナー	1月15日(水)	山形県立 置賜農業 高等学校 (川西町)	・非常食づくり研修	1年生及び2年生　70 名 支部職員　2 名 合 計　72 名
36	山形県立置賜農業 高等学校防災セミナー	1月16日(木)	山形県立 置賜農業 高等学校 (川西町)	・非常食づくり研修	1年生　26 名 支部職員　2 名 合 計　28 名
37	一般社団法人　山形県 バス協会防災セミナー	1月22日(水)	山形県 バス協会 (山形市)	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験 ・救急法講習	バス協会員　8 名 支部職員　1 名 合 計　9 名
38	大蔵村民生委員・児童委員 防災セミナー	2月18日(火)	大蔵村 中央公民館 (大蔵村)	・ひなんじょたいけん	民生委員・児童委員　16 名 支部職員　1 名 合 計　17 名

No.	行事名	期　日	場　所	内　容	参加者
39	JAさがえ西村山女性部 防災セミナー	2月21日(金)	JAさがえ 西村山本所 (寒河江市)	・赤十字活動紹介 ・災害救援資器材の展開体験 ・救援物資展示紹介	JA女性部長　80 名 支部職員　2 名 合 計　82 名
40	上山市山元地区 防災セミナー	2月22日(土)	山元地区 公民館 (上山市)	・災害への備え ・非常食作り研修	地域住民　15 名 支部職員　1 名 合 計　16 名
41	山形市千歳地区 防災セミナー	2月28日(金)	千歳コミュニティセンター (山形市)	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験	地域住民　16 名 支部職員　1 名 合 計　17 名
42	JAみちのく村山女性部 防災セミナー	3月6日(木)	JAみちのく村山営農センター (村山市)	・災害への備え ・災害救援資器材の展開体験	JA女性部総代　50 名 支部職員　1 名 合 計　51 名
43	㈱すまいるはーと 防災セミナー	3月12日(水)	すまいるはーと (高畠町)	・災害への備え	従業員　7 名 支部職員　1 名 合 計　8 名
44	山形市第五地区町内会連合会防災セミナー	3月14日(金)	東部公民館 (山形市)	・ひなんじょたいけん	町内会連合会員　36 名 支部職員　1 名 合 計　37 名
45	JA庄内たがわ女性部 防災セミナー	3月16日(日)	庄内たがわ農業協同組合 (鶴岡市)	・赤十字活動紹介 ・災害救援資器材の展開体験	JA女性部　50 名 支部職員　1 名 合 計　51 名
合計					1,374 名

能登半島地震や7月25日からの県内での大雨災害の経験から、県民の防災意識は高まっており、昨年度と比較して防災セミナーの開催回数は約3倍に増加した

⑹ 地域包括ケアシステムへの貢献

医療・介護・予防等の包括的確保を目的とした地域包括ケアへ貢献するため、各種会議・研修に職員を派遣した。

No.	研修・会議名	期　日	場　所	参加者
1	第1回地域包括ケア担当者会議(Web)	5月28日(火)	日赤県支部 (山形市)	支部職員　1 名
2	第2回地域包括ケア担当者会議	11月11日(月) ～12日(火)	日赤本社 (東京都)	支部職員　1 名

⑺ 東日本大震災・追悼復興祈念事業への出展等

東日本大震災追悼・復興祈念事業（山形会場）実行委員会が山形市文翔館を会場に毎年開催する祈念事業にて、山形県支部（同実行委員）で震災当時の活動パネルを掲示するとともに、3月11日が山形県の「県民防災デー」であることから、防災・減災の普及の一環として救援物資及び段ボールベッド、避難所用簡易テント等を展示した。

また、震災の記憶を未来につないでいくことを目的に、山形市及び隣接市町の青少年赤十字加盟高校に呼びかけを行い、5校から集まった高校生25名より「未来につなげる私たちのメッセージ」と題して高校生によるメッセージボードの作成及びキャンドルナイト用のキャンドルづくりに協力いただいた。

No	参加校	参加生徒等
1	山形県立山形東高等学校	2 名
2	山形県立山形西高等学校	7 名
3	山形県立山形北高等学校	8 名
4	日本大学山形高等学校	4 名
5	東海大学山形高等学校	4 名
合　計		25 名

参加生徒が一人ひとり手書きのメッセージを貼り、メッセージツリーとなったボード

震災当時の救援活動をまとめたパネルの見学

キャンドルに貼るフィルム紙に生徒が未来へのメッセージを綴った

山形市文翔館前に並べられたキャンドル

⑻ 災害救護活動

令和6年7月25日からの大雨災害

梅雨前線と低気圧の影響により、7月25日（木）未明から県内の広い範囲で大雨が続き、庄内及び最上の2市3町2村に大雨特別警報が発表され、線状降水帯も発生し、県内で起きた災害で過去最大の被害をもたらした。

日赤山形県支部では、発災直後から救護体制に移行し、初動では県庁他関係機関と連絡を取って被害状況の情報収集に努め、被災市町村へ救援物資を搬送した。

市町村に組織されている地域赤十字奉仕団（赤十字ボランティア）では、避難所運営支援や炊き出し、ボランティアセンターの運営協力など幅広い支援活動を実施し、被災者及び支援者の双方のサポートに取り組んでいただいた。

また、8月1日（木）から山形県の要請に基づき、酒田市・遊佐町・戸沢村の各避難所へ山形県支部及び第1ブロックの隣県支部（宮城県・秋田県・福島県）のこころのケア班を派遣し、被災者のこころのケア活動を実施した。

山形県からの要請が終了となったことから、9月14日（土）に山形県支部の救護体制を解除した。

ア　連絡調整員（リエゾン）の派遣

山形県災害対策本部員会議に連絡調整員を派遣し、被災情報の収集及び関係機関との情報共有に努めた。

派遣先	派遣期間	活動内容	人　数
山形県災害対策本部員会議 （山形県庁）	第1回 7月25日（木）～ 第9回 8月28日（水）	情報収集及び関係機関との連携	計　支部職員10名
		山形県災害対策本部員会議への参加	

山形県災害対策本部員会議へ
職員を派遣し情報収集に努めた

イ　救援物資の搬送

被災市町村に対し物資の不足等の状況確認を行い、救援物資を搬送した。

No	搬送先	搬送日	救援物資		
			毛　布	タオルケット	緊急セット
1	庄内町役場	7月26日（金）	30 枚	10 枚	12 個
2	舟形町役場	7月31日（水）	30 枚	40 枚	12 個

ウ　赤十字ボランティアによる支援

県内赤十字ボランティアが市町村の実施する災害支援活動等に協力している。

No.	活動団体	活動日	活動人数	活動内容
1	酒田市赤十字奉仕団	7月25日（木）	70 名	避難呼びかけと誘導
		7月25日（木） ～31日（水）	400 名	高齢者世帯の安否・健康確認
		7月25日（木） ～26日（金）	50 名	避難所運営協力 炊き出し支援（温食提供）
			60 名	避難者への声かけ
		7月25日（木） ～28日（日）	4 名	避難者の食事提供
		7月27日（土） ～10月31日（木）	100 名	災害ボランティアセンターの 受付業務及び活動支援
		7月28日（日） ～9月30日（月）	80 名	災害ボランティアへの熱中症予防、健康観察の声かけ
2	戸沢村松坂赤十字奉仕団	7月25日（木） ～26日（金）	各日5 名	炊き出し支援
3	酒田市本楯赤十字奉仕団	7月26日（金）	25 名	炊き出し支援
		7月27日（土）	10 名	炊き出し支援

No.	活動団体	活動日	活動人数	活動内容
4	鮭川村赤十字奉仕団	8月3日(土) ～5日(月)	各日2 名	災害ボランティアセンターの受付業務
		8月7日(水) ～12日(月)	各日1 名	
		8月16日(金) ～19日(月)		義援金募集
5	金山町羽場地区 赤十字奉仕団	8月4日(日)	3 名	義援金募集

災害ボランティアセンターで受付業務を行う奉仕団員
(左：酒田市赤十字奉仕団、右：鮭川村赤十字奉仕団)

エ　赤十字こころのケア班の派遣

避難生活等により心身にストレスを抱える被災者のこころのケアを行うため、山形県支部のこころのケア班を派遣するとともに、長期の活動に対応するため第1ブロック(北海道・東北)支部と調整し、隣県支部のこころのケア班を派遣した。

班	派遣先	派遣期間	派遣要員	
			こころのケア要員	連絡調整員
第1班	酒田市	8月1日(木) ～3日(土)	北村山公立病院　1 名 米沢市立病院　1 名	山形県支部　1 名
第2班	酒田市	8月4日(日) ～6日(火)	山形県立河北病院　1 名	山形県支部　1 名
第3班	酒田市	8月7日(水) ～9日(金)	鶴岡市立荘内病院　1 名 山形県支部　1 名	山形県支部　1 名
第4班	酒田市	8月10日(土) ～12日(月)	米沢市立病院　1 名 山形県支部　1 名	山形県支部　1 名
第5班	酒田市、戸沢村	8月13日(火) ～15日(木)	北村山公立病院　1 名 山形県支部　1 名	山形県支部　1 名
第6班	酒田市、戸沢村	8月16日(金) ～19日(月)	仙台赤十字病院　3 名	―
第7班	酒田市、戸沢村	8月19日(月) ～22日(木)	福島赤十字病院　3 名	福島県支部　1 名
第8班	酒田市、戸沢村、 遊佐町	8月22日(木) ～25日(日)	秋田赤十字病院　2 名	秋田赤十字病院　1 名
第9班	酒田市、戸沢村	8月25日(日) ～28日(水)	石巻赤十字病院　3 名	―
第10班	酒田市、戸沢村	8月28日(水) ～31日(土)	鶴岡市立荘内病院　1 名 公立置賜総合病院　1 名	山形県支部　1 名
第11班	戸沢村	9月3日(火)	山形県赤十字血液センター　2 名	山形県支部　1 名
第12班	戸沢村	9月10日(火)	山形県赤十字血液センター　2 名	山形県支部　2 名

被災状況を思い出して涙を流す避難者もおり、
ケア要員は傾聴を通してストレス緩和を図った

段ボールベッドに寝ている高齢避難者にハンド
ケアをしながら傾聴を行った

⑼ 被災世帯への援護

令和6年7月25日からの大雨災害や火災等で住家が被災した世帯に対して、毛布・緊急セット等の救援物資及び見舞金を交付したほか、災害による死亡者弔慰金を贈呈して被災世帯の援護を図った。

［救援物資の配付及び見舞金、弔慰金の交付状況］

被災者数	552名　212世帯	
災害救援物資の配付	毛　　布	171　枚
	緊急セット	74　個
	学用品セット	2　個
	タオルケット	87　枚
災害見舞金の交付		2,520,000　円
災害弔慰金の交付		260,000　円

被災世帯へ配布される災害救援物資（毛布・緊急セット・学用品セット）

⑽ 国内義援金の受付状況

No	義援金名	件　数	金　額
1	令和6年能登半島地震災害義援金	739　件 (　1,955　件)	73,735,221　円 (　212,644,300　円)
2	令和6年7月25日からの大雨災害義援金	628　件	198,468,792　円
3	令和6年9月能登半島大雨災害義援金	292　件	2,616,792　円
4	令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	178　件	238,680　円
5	令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	288　件	1,072,690　円
合　計		2,125　件 (　3,341　件)	276,132,175　円 (　415,041,254　円)

（　）内は、受付開始からの累計受付件数及び受付額

２ 救急法等の普及

人間のいのちと健康、尊厳を守るために、救急法等の5つの講習を通して、具体的な知識や技術を県民に広く普及し、緊急時の応急対応能力を高める。

⑴ 指導員の登録状況

救急法	水上安全法	雪上安全法	幼児安全法	健康生活支援講習	合 計
115名	21名	3名	34名	6名	179名

※上記人数は、資格別登録者数。登録者実数は126名。

⑵ 救急法等講習の実施

各事業所、学校、サークル等からの開催希望に幅広く応じ、救急法等の講習会を実施した。

講習名	一般普及講習				短期講習		合 計	
	基礎講習		養成講習					
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
救急法	29 回	495 名	14 回	187 名	313 回	9,100 名	356 回	9,782 名
水上安全法			2 回	15 名	40 回	1,345 名	42 回	1,360 名
雪上安全法			2 回	9 名	1 回	15 名	3 回	24 名
幼児安全法			2 回	15 名	75 回	1,230 名	77 回	1,245 名
健康生活支援講習			1 回	9 名	3 回	47 名	4 回	56 名
合 計	29 回	495 名	21 回	235 名	432 回	11,737 名	482 回	12,467 名

市町村の防災訓練やイベント、地域住民の集まりや学校での授業など、多くの方に受講いただいた

⑶ 指導員の育成

指導員と支部との連携を図るとともに、指導員及び職員の知識や技術の向上のため、各種会議・研修会等を開催した。

No	研修名	期　日	場　所	参加者
1	令和6年度第1回講習推進第1ブロック会議及び講習担当者打合わせ会(Web)	4月25日(木)	日赤県支部 (山形市)	支部職員　2 名
2	赤十字講習担当課長会議(Web)	4月26日(金)	日赤県支部 (山形市)	支部職員　1 名
3	赤十字講習担当者研修会	5月23日(木) ～24日(金)	日赤神奈川県支部 (神奈川県)	支部職員　1 名
4	救急法等指導員会議	5月31日(金)	山形県総合運動公園 (天童市)	救急法等指導員　29 名 支部職員　5 名 合 計　34 名
5	赤十字救急法講師養成講習	10月29日(火) ～31日(木)	日赤東京都支部 (東京都)	支部職員　1 名
6	赤十字救急法講師研修会	12月17日(火) ～18日(水)	国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都)	支部職員　1 名
7	赤十字水上安全法講師研修会	2月4日(火) ～5日(水)	BumB東京スポーツ文化館 (東京都)	血液センター職員　1 名
8	救急法指導員研修会	3月8日(土) 3月10日(月)	天童市総合福祉センター(天童市) 及び 酒田市地域福祉センター(酒田市)	救急法指導員　47 名 支部職員　2 名 合 計　49 名
9	水上安全法指導員研修会	3月9日(日) 3月14日(金)	天童市総合福祉センター(天童市) 及び 酒田市地域福祉センター(酒田市)	水上安全法指導員　11 名 支部職員　2 名 合 計　13 名
10	幼児安全法指導員研修会	3月8日(土) 3月9日(日)	天童市総合福祉センター(天童市) 及び 酒田市地域福祉センター(酒田市)	幼児安全法指導員　8 名 支部職員　2 名 合 計　10 名

⑷ イベントを活用した救急法等の普及

一次救命処置の大切さを多くの県民の方に普及し、いのちの大切さについて広めていくために、フェスタや商業施設等で一次救命処置体験コーナーを設置した。

No	行事名	期　日	場　所	参加者
1	「スプリングフェスティバル はたらくくるま大集合」 での一次救命処置体験 コーナーの設置	5月5日（日）	山形市中心商店街 （山形市）	体験者 341 名 救急法等指導員 2 名 RSB奉仕団員 7 名 支部職員 3 名 合 計 353 名
2	「2024赤十字フェスタ ひがしね」での一次救命 処置体験コーナー の設置	5月5日（日）	ひがしね あそびあランド （東根市）	体験者 156 名 救急法等指導員 2 名 合 計 158 名
3	「イオンモール三川 はたらくクルマ展」での 一次救命処置体験 コーナーの設置	6月9日（日）	イオンモール三川 （三川町）	体験者 150 名 救急法等指導員 2 名 支部職員 1 名 合 計 153 名
4	べにっこ広場での 一次救命処置体験 コーナーの設置【新規】	9月9日（月） 9月21日（土）	べにっこひろば （山形市）	体験者 75 名 支部職員 1 名 合 計 76 名
5	「防災フェスティバル in イオンモール山形南」での 一次救命処置体験 コーナーの設置【新規】	9月14日（土）	イオンモール山形南 （山形市）	体験者 100 名 救急法等指導員 1 名 支部職員 1 名 合 計 102 名
6	「山形市防災フェスティバ ル」での一次救命処置体験 コーナーの設置	9月28日（土）	道の駅 やまがた蔵王 （山形市）	体験者 172 名 支部職員 3 名 合 計 175 名
7	「ファーストエイドデーイベン ト」での一次救命処置 体験コーナーの設置	9月28日（土）	イオンモール三川 （三川町）	体験者 45 名 救急法等指導員 1 名 支部職員 1 名 合 計 47 名
8	「2024赤十字フェスタinたか はた」での一次救命 処置体験コーナーの設置	11月3日（日）	げんき館 （高畠町）	体験者 65 名 救急法等指導員 2 名 合 計 67 名
9	「やまのべまるごとフェスティ バル」での一次救命処置 体験コーナーの設置	11月3日（日）	山辺中央公園 （山辺町）	体験者 200 名 救急法等指導員 2 名 合 計 202 名
10	「防災フェスティバルin イオンモール天童」での 一次救命処置体験コー ナーの設置	3月20日（木）	イオンモール天童 （天童市）	体験者 200 名 救急法等指導員 2 名 支部職員 1 名 合 計 203 名

3 赤十字奉仕団

地域社会における赤十字運動を推進していくため、赤十字奉仕団の育成と技術の向上に努める。

⑴ 赤十字奉仕団の登録状況

区 分	団 数	団員数			
地 域 奉 仕 団	32 団	1,593 名	(男性	510 名、	女性 1,083名)
特 殊 奉 仕 団	5 団	222 名	(男性	143 名、	女性 79名)
青 年 奉 仕 団	2 団	123 名	(男性	11 名、	女性 112名)
合 計	39 団	1,938 名	(男性	664 名、	女性 1,274名)

⑵ 赤十字奉仕団指導講師の委嘱

赤十字奉仕団活動の活性化と支部事業の推進を図ることを目的に、奉仕活動に精通し、ボランティア活動に対する様々な指導・助言等の役割を担う赤十字奉仕団指導講師を5名委嘱し、活動いただいた。

〔指導講師の委嘱状況〕

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
1名	0名	4名	0名	5名

⑶ 本社・支部主催の各種研修・会議の開催状況

奉仕団活動の推進を図るため、各種研修・会議を開催した。

No	研修・行事名	期 日	場 所	参加者
1	令和6年度赤十字奉仕団担当者初任者研修会(Web)	4月12日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員 1 名
2	第1回赤十字奉仕団山形県支部委員会	4月24日(水)	県総合運動公園大会議室	奉仕団委員長 9 名 支部職員 5 名 合 計 14 名
3	赤十字奉仕団委員長会議	4月24日(水)	県総合運動公園大会議室	奉仕団委員長 18 名 支部職員 6 名 合 計 24 名
4	第1回青年赤十字奉仕団全国協議会(Web)	5月11日(土)	自宅	青年赤十字奉仕団委員長 1 名
5	赤十字奉仕団中央委員会	5月30日(木)～31日(金)	日赤本社(東京都)	県支部委員会委員長 1 名
6	青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会	6月15日(土)～16日(日)	日赤秋田県支部(秋田県)	青年赤十字奉仕団委員長 1 名
7	令和6年度赤十字奉仕団担当者会議(Web)	7月5日(金)	日赤県支部(山形市)	支部職員 1 名
8	令和6年度全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	7月11日(木)～12日(金)	日赤本社(東京都)	青少年赤十字賛助奉仕団委員長 1 名
9	赤十字奉仕団視察研修	9月5日(木)～6日(金)	日赤宮城県支部他(宮城県)	奉仕団員 12 名 支部職員 3 名 合 計 15 名
10	令和6年度赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会	12月15日(日)	日赤県支部(山形市)	奉仕団員 11 名 赤十字奉仕団指導講師 3 名 支部職員 4 名 合 計 18 名
11	第2回青年赤十字奉仕団全国協議会(Web)	1月18日(日)	自宅	青年赤十字奉仕団委員長 1 名
12	令和6年度赤十字奉仕団指導講師研修会	1月25日(土)～27日(月)	日赤本社(東京都)	赤十字奉仕団指導講師 1 名

No	研修・行事名	期　日	場　所	参加者
13	令和6年度赤十字奉仕団指導講師会議	2月13日（木）	日赤県支部 （山形市）	赤十字奉仕団指導講師　4 名 支部職員　4 名 合 計　8 名
14	令和6年度青年赤十字奉仕団第1ブロック統一キャンペーン	2月22日（土） ～23日（日）	日赤秋田看護大 日赤秋田短期大 （秋田県）	青年赤十字奉仕団委員長　1 名
15	第2回赤十字奉仕団山形県支部委員会	3月4日（火） ～5日（水）	ほほえみの宿 滝の湯 （天童市）	奉仕団委員長　8 名 支部職員　4 名 合 計　12 名

⑷ 赤十字奉仕団ワールドカフェの実施

赤十字奉仕団相互の情報交換及び交流の場を提供し自団の活動参考にしていただくとともに、赤十字奉仕団関係事業へのご意見をいただき参考とするため実施した。

No	期日	対象地域及び場所	参加者
1	11月23日（土）	庄内地域 東京第一ホテル鶴岡	奉仕団員　（3団）　5 名 支部職員　3 名 合 計　8 名
2	11月24日（日）	置賜地域 タスパークホテル長井	奉仕団員　（6団）　12 名 支部職員　2 名 合 計　14 名

同じ地域の奉仕団同士で活動の内容の情報交換などを行った。

⑸ 東日本大震災復興支援事業の実施

赤十字奉仕団が計画・実施した東日本大震災復興支援事業に、支部として事業実施を支援した。

行事名	期　日	場　所	参加者
令和6年度 東日本大震災復興支援事業	11月2日（土） ～3日（日）	気仙沼市大沢 地区大沢集会所 （宮城県気仙沼市）	地域住民　60 名 東根市蟹沢赤十字奉仕団　9 名 支部職員　3 名 合 計　72 名

蒸しパン作りで地域住民と交流

地域住民へ芋煮のふるまい

地元住民と一緒に食事しながら交流

奉仕団と地域住民の記念撮影

⑹ 奉仕団主催の研修・行事等開催状況

各団では、団員育成や地域における赤十字事業の普及のため、各種研修・行事等を開催した。

No	研修名	期　日	場　所	参加者
1	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団第1回役員会	4月5日（金）	日赤県支部 （山形市）	県青少年赤十字賛助奉仕団員　10 名 支部職員　1 名 合 計　11 名
2	令和6年度特養光会・長井市赤十字奉仕団総会	4月13日（日）	ウエルフェア慈光園 ドリームホール （長井市）	奉仕団員　80 名 支部職員　2 名 合 計　82 名
3	山形県青少年赤十字賛助 奉仕団定期総会	4月28日（日）	霞城セントラル （山形市）	県青少年赤十字賛助奉仕団員　10 名 支部職員　1 名 合 計　11 名
4	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団第2回役員会	6月3日（月）	日赤県支部 （山形市）	県青少年赤十字賛助奉仕団員　10 名 支部職員　2 名 合 計　12 名
5	米沢市赤十字奉仕団 赤十字防災セミナー 【再掲】	6月14日（金）	米沢五中 （米沢市）	奉仕団員　8 名 中学生　24 名 支部職員　2 名 合 計　34 名
6	酒田市本楯赤十字奉仕団 赤十字防災セミナー 【再掲】	7月16日（火）	酒田市本楯 コミュニティセンター （酒田市）	奉仕団員　30 名 支部職員　2 名 合 計　32 名
7	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団第3回役員会	7月22日（月）	日赤県支部 （山形市）	県青少年赤十字賛助奉仕団員　10 名 支部職員　1 名 合 計　11 名
8	山形県青少年赤十字賛助 奉仕団団員研修	10月4日（金）	日赤県支部及び 山形市市民防災 センター （山形市）	県青少年赤十字賛助奉仕団員　11 名 支部職員　2 名 合 計　13 名
9	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団第4回役員会	11月1日（金）	日赤県支部 （山形市）	県青少年赤十字賛助奉仕団員　10 名 支部職員　1 名 合 計　11 名

⑺ 奉仕団主催の会合・研修の開催に合わせた赤十字ボランティア基礎研修会の開催

赤十字奉仕団に所属している団員の方々に対し、赤十字の組織、役割、赤十字ボランティアとして活動するための必要な知識等についてご理解いただき、赤十字ボランティアとしての意識の高揚を図ることを目的として各団主催の会合・研修開催時に合わせて、基礎研修会を開催した。

No	研修名	期　日	場　所	参加者
1	赤十字ボランティア基礎研修（白鷹町わかあゆ会赤十字奉仕団）	4月14日（金）	鮎貝地区コミュニティセンター（白鷹町）	赤十字奉仕団員 15 名 支部職員 2 名 合 計 17 名
2	赤十字ボランティア基礎研修（小国町赤十字奉仕団）	9月30日（月）	小国町健康管理センター（小国町）	小国町赤十字奉仕団員 4 名 小国町分区職員 1 名 支部職員 2 名 合 計 7 名
3	赤十字ボランティア基礎研修（小国町赤十字奉仕団）	2月10日（月）	日赤県支部（山形市）	小国町赤十字奉仕団員 9 名 小国町分区職員 1 名 支部職員 3 名 合 計 13 名

⑻ 赤十字奉仕団活動用ビブスの整備

令和5年度に県内の奉仕団にアンケートを実施した中で、「活動の際に一体感が生まれる」「周りの人から一目で赤十字奉仕団の活動だと認識してもらえる」資材の整備について要望があったことから、赤十字奉仕団活動用ビブスを整備し、各奉仕団に10着ずつ配布した。

赤十字奉仕団活動用ビブス

多くの奉仕団の皆さんより着用して活動いただいている
（赤十字NEWS発送ボランティア・桐花会赤十字奉仕団）

⑼ 活動助成金の交付状況

各団のボランティア活動を推進するため、申請に応じて1団につき上限を11万円(モデル赤十字奉仕団は18万円)として活動助成金を交付した。

区　分	申請団数	交付額
地域奉仕団	24 団	2,080,000 円
特殊奉仕団	5 団	530,000 円
青年奉仕団	0 団	0 円
合　計	29 団	2,610,000 円

4 青少年赤十字

次世代を担う児童・生徒が、赤十字を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成に努める。

⑴ 青少年赤十字加盟登録状況

地 区	校種別 区 分	幼稚園 保育園	小学校 ※義務教育学校を含む	中学校	高等学校	特別支援 学 校	合 計
村 山	園・学校数	166 園	102 校	41 校	25 校	12 校	346 校
	加盟校数	12 園	38 校	30 校	11 校	1 校	92 校
	加盟率	7.2 %	37.3 %	73.2 %	44.0 %	8.3 %	26.6 %
	メンバー数	1,192 名	8,668 名	7,991 名	1,112 名	6 名	18,969 名
最 上	園・学校数	25 園	19 校	12 校	7 校	1 校	64 校
	加盟校数	2 園	16 校	9 校	0 校	0 校	27 校
	加盟率	8.0 %	84.2 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	42.2 %
	メンバー数	205 名	3,278 名	1,164 名	0 名	0 名	4,647 名
置 賜	園・学校数	62 園	47 校	18 校	14 校	4 校	145 校
	加盟校数	5 園	21 校	7 校	7 校	0 校	40 校
	加盟率	8.1 %	44.7 %	38.9 %	50.0 %	0.0 %	27.6 %
	メンバー数	332 名	3,378 名	1,857 名	218 名	0 名	5,785 名
庄 内	園・学校数	99 園	56 校	22 校	16 校	3 校	196 校
	加盟校数	2 園	11 校	1 校	5 校	1 校	20 校
	加盟率	2.0 %	19.6 %	4.5 %	31.3 %	33.3 %	10.2 %
	メンバー数	214 名	2,207 名	342 名	489 名	45 名	3,297 名
合 計	園・学校数	352 園	224 校	93 校	62 校	20 校	751 校
	加盟校数	21 園	86 校	47 校	23 校	2 校	179 校
	加盟率	6.0 %	38.4 %	50.5 %	37.1 %	10.0 %	23.8 %
	メンバー数	1,943 名	17,531 名	11,354 名	1,819 名	51 名	32,698 名

＜令和6年度新規加盟校（園）：2校（園）＞

〇認定こども園　天童みくに幼稚園　　〇山形市立第二中学校

⑵ 青少年赤十字指導講師の委嘱

青少年赤十字活動の充実及び普及拡大並びに広く赤十字事業を推進するため、青少年赤十字加盟校の元校長を青少年赤十字指導講師として委嘱している。

〔県内学校等への指導講師の委嘱状況〕

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
1名	0名	2名	1名	4名

⑶ 青少年赤十字指導講師及び支部青少年赤十字推進員の活動状況

青少年赤十字未加盟校への加盟勧奨、青少年赤十字加盟校への指導・助言、県及び市町村教育委員会との連絡調整などを行った。

〔訪問回数〕

青少年赤十字指導講師	支部青少年赤十字推進員	合 計
68回	92回	160回

⑷ 本社主催各種会議・研修会への指導者の派遣

青少年赤十字への理解と認識を高め、青少年赤十字指導者の養成を図るため、指導者を派遣した。

No	会議・研修会名	期 日	場 所	派遣者
1	令和6年度青少年赤十字 担当者説明会（Web）	4月9日（火）	日赤県支部 （山形市）	支部職員　2 名
2	令和6年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター 指導者養成講習会	5月31日（金） ～ 6月2日（日）	国立オリンピック記念青少年総合センター （東京都）	支部職員　1 名

No	会議・研修会名	期　日	場　所	派遣者
3	青少年赤十字全国指導者協議会 総会・研修会	7月12日（金）	日本自動車会館 及び日赤本社 （東京都）	県指導者協議会会長　1 名 （山形県立山形北高等学校長）
4	青少年赤十字指導者中央講習会	11月3日（月）	日赤本社 （東京都）	支部職員　1 名
5	第1ブロック支部青少年赤十字指導者研究会	11月21日（木） ～22日（金）	日赤北海道支部 （北海道）	加盟校指導者　1 名
6	青少年赤十字研究会	1月10日（金）	日赤本社 （東京都）	庄内教育事務所指導主事　1 名

⑸ 県支部主催各種会議・研修会等の開催

青少年赤十字活動の活性化を図るため、各種会議・研修会等を開催した。

No	会議・研修会名	期　日	場　所	参加者
1	第1回青少年赤十字指導講師 打合せ会	6月6日（木）	日赤県支部 （山形市）	指導講師　4 名 支部職員　4 名 合 計　8 名
2	第2回青少年赤十字指導講師 打合せ会	11月12日（火）	日赤県支部 （山形市）	指導講師　3 名 支部職員　2 名 合 計　5 名
3	青少年赤十字山形県指導者協議会 理事・幹事会及び 青少年赤十字研究発表会 （ハイブリッド開催）	11月12日（火）	各加盟校及び 日赤県支部 （山形市）	県教育局義務教育課　1 名 指導者協議会理事・幹事　11 名 R4・R5研究推進校指導者　4 名 指導講師　3 名 賛助奉仕団　2 名 支部職員　3 名 合 計　24 名

⑹ 防災教育出前授業の実施

青少年赤十字防災教育プログラムを活用し、防災・減災につながる出前授業を実施した。

No	学校・団体名	期　日	場　所	参加者
1	米沢市立第五中学校	6月14日（金）	米沢市立第五中学校 （米沢市）	2学年生徒　24 名 支部職員　2 名 合計　26 名
2	村山教育事務所	6月23日（日）	山形県青年の家 （天童市）	村山地区中学生　20 名 支部職員　2 名 合計　22 名
3	南陽市社会福祉協議会	7月20日（土）	南陽市 健康長寿センター （南陽市）	南陽市内親子　25 名 支部職員　1 名 合計　26 名
4	最上教育事務所	8月8日（木）	ゆめりあ （新庄市）	最上地区中学生　20 名 支部職員　2 名 合計　22 名
				受講者数合計　96 名

⑺ 青少年赤十字防災かるた（山形県版）の普及

令和4年度の青少年赤十字創設100周年記念事業として、県内青少年赤十字加盟校及び青少年赤十字賛助奉仕団から提供された絵札や読み札を使用し、山形県版の青少年赤十字防災かるたを作成した。

加盟校だけでなく未加盟校にも積極的な活用を促すほか、市町村が主催する防災イベント等での利用についても周知し、令和6年度は小学校12校、奉仕団2団、1市へ貸し出しを行った。

※防災かるたは支部ホームページからダウンロードして誰でも活用できるようにしている。

かるたの読み札と絵札のデザイン

小学校での実践風景

⑻ 児童・生徒、メンバーの育成

① 青少年赤十字リーダーシップ研修の実施

青少年赤十字活動におけるリーダーを養成するためのリーダーシップ研修については、広域からの参加を見込み実施した。

No	研修会名	期　日	場　所	参加者	
1	高等学校青少年赤十字 リーダーシップ研修	6月1日（土）	山形テルサ （山形市）	青少年赤十字高校生メンバー	48 名
				青少年赤十字加盟高校指導者	1 名
				指導講師	1 名
				青少年赤十字賛助奉仕団	2 名
				支部職員	1 名
				合 計	53 名
2	小・中学校青少年赤十字 リーダーシップ研修	8月1日（木）	新庄市民 プラザ （新庄市）	青少年赤十字小・中学生メンバー	48 名
				青少年赤十字加盟小・中学校指導者	10 名
				指導講師	2 名
				青少年赤十字賛助奉仕団	2 名
				支部職員	2 名
				合 計	64 名
3	高等学校青少年赤十字 リーダーシップ研修	9月14日（土） ～15日（日）	日赤県支部 （山形市） 及び 山形県 青年の家 （天童市）	青少年赤十字小・中学生メンバー	39 名
				青少年赤十字加盟小・中学校指導者	2 名
				指導講師	1 名
				青少年赤十字賛助奉仕団	2 名
				支部職員	2 名
				合 計	46 名
4	第2回小・中学校青少年 赤十字リーダーシップ研修 （Web）	11月23日（土）	各加盟校 及び 日赤県支部 （山形市）	青少年赤十字小・中学生メンバー	18 名
				青少年赤十字加盟小・中学校指導者	4 名
				指導講師	2 名
				青少年赤十字賛助奉仕団	1 名
				支部職員	2 名
				合 計	27 名

小・中学校リーダーシップ研修

高等学校青少年赤十字リーダーシップ研修

② 山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会

総会や役員会等の活動を行うとともに、総会では、令和6年度の具体的な活動の方向性が提案され、承認された。

＜活動方針＞

「正しい知識に基づき、日常において感染防止についての意識を継続し、防災意識の向上をはかります。」

「自分の意志と他者への思いやりを持ち、偏見や差別に与しません。」

「3.11を忘れることなく未来につなげます。」

No	会議・研修会名	期　日	場　所	参加者	
1	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第1回役員会	5月6日（月）	日赤県支部 （山形市）	県高等学校連絡協議会役員	22 名
				酒田西高校RDD委員会	5 名
				酒田西高校指導者	1 名
				指導講師	1 名
				青少年赤十字賛助奉仕団	1 名
				支部職員	2 名
				合 計	32 名

No	会議・研修会名	期　日	場　所	参加者
2	山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会第2回役員会(Web)	7月10日(水)	各加盟校及び日赤県支部(山形市)	県高等学校連絡協議会役員 18 名 支部職員 2 名 合 計 20 名
3	山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会総会及び研究集会(Web)	8月9日(火)	各加盟校及び日赤県支部(山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 75 名 青少年赤十字加盟高等学校指導者 4 名 県指導者協議会会長 1 名 指導講師 3 名 青少年赤十字賛助奉仕団 4 名 支部職員 3 名 合 計 90 名
4	山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会第3回役員会	9月14日(土)	山形テルサ(山形市)	県高等学校連絡協議会役員 15 名 支部職員 2 名 合 計 17 名
5	山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会第4回役員会(Web)	11月1日(金)	各加盟校及び日赤県支部(山形市)	県高等学校連絡協議会役員 22 名 支部職員 2 名 合 計 24 名
6	山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会第5回役員会(Web)	12月21日(土)	各加盟校及び日赤県支部(山形市)	県高等学校連絡協議会役員 10 名 支部職員 2 名 合 計 12 名
7	山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会第6回役員会	3月9日(日)	山形テルサ(山形市)	県高等学校連絡協議会役員 22 名 支部職員 2 名 合 計 24 名

⑼ 研究推進校の委嘱

活発な青少年赤十字活動を推進するため、研究推進校として6校を委嘱し、1校につき7万円の助成金を交付した。

No	学校名	テーマ	委嘱年度
1	山形市立南山形小学校	「気づき」「考え」「実行する」 自分も仲間も大切にする子どもの育成	令和5年度 ～令和6年度
2	天童市立第一中学校	ボランティア活動や奉仕活動を通した心の教育	
3	山形県立酒田西高等学校	いのちへの思いを社会に発信する活動 ～「RDD in 酒田西高」活動を通して～	
4	村山市立楯岡小学校	「自分で　自分たちで　考える　決める 行動する」子供の育成を目指して	令和6年度 ～令和7年度
5	真室川町立真室川中学校	「気づき、考え、実行する」ことができる生徒の育成のために	
6	鶴岡東高等学校	「生涯教育の一環として高校生の ボランティア層の拡大と推進」 ～奉仕活動を通したボランティア精神の涵養と活動の広がりを考察する～	
助成金交付合計額　420,000円(6校×70,000円)			

⑽ 青少年赤十字国際交流事業

交流の機会を通じて、平和な国際社会の実現を目指すとともに、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の実践の機会とするため、令和6年12月22日～27日に青少年赤十字加盟校の高校生及び指導者を大韓赤十字社大邱支社へ派遣する計画としていたが、令和6年12月3日に韓国大統領が非常戒厳令を宣布し、現地大使館から「人々の集まりや移動、これに伴う混乱、衝突など、不測の事態が生じる可能性が否定できない」との発表があったことから、派遣生徒の安全を第一に考え、令和6年度の事業を中止することとした。

5 国際活動

国際赤十字の一員として、開発途上国における健康・安全の確保や、海外の災害や紛争の被災者支援など、海外の救援・支援ニーズにあわせた人道的活動を展開する。

⑴ 第1ブロック支部合同国際活動

本社が直接実施している海外での救援及び開発協力活動のうち、次の活動について、北海道・東北ブロック支部共同事業として資金の支援を行った。

No	事業名	支援先	金額
1	救急法普及支援事業	ラオス	180,000 円
2	青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	179,000 円
3	気候変動等レジリエンス強化事業	ルワンダ	180,000 円
4	気候変動対策事業	アフガニスタン	180,000 円
合計			719,000 円

⑵ 発展途上国への教育支援事業

令和7年度の支援に向けて、県高等学校青少年赤十字連絡協議会が中心となり、加盟校や地区分区等へ呼びかけを行い、原資となる書き損じはがきの回収事業を行った。

また、令和5年度に計画していたベトナムへの支援についてはベトナム赤十字社の事情により中止となったが、日赤本社を通じて調整を図り、インドネシア赤十字社を通してインドネシアのケブメン県及びマラン県の小学校へ学用品を贈呈した。

⑶ 海外救援事業のための募金活動

① 海外救援金の受付

海外における自然災害の被災者や紛争犠牲者等を支援するため、海外救援金を受け付けている。

No	救援金名	件数	金額
1	中東人道危機救援金	4 件 (92 件)	1,472 円 (328,102 円)
2	バングラデシュ南部避難民救援金	6 件 (123 件)	7,444 円 (143,889 円)
3	アフガニスタン人道危機救援金	3 件 (117 件)	1,436 円 (131,322 円)
4	ウクライナ人道危機救援金	129 件 (966 件)	628,715 円 (34,409,238 円)
5	イスラエル・ガザ人道危機救援金	51 件 (190 件)	191,459 円 (595,100 円)
6	2024年台湾東部沖地震救援金	318 件	10,297,075 円
7	レバノン人道危機救援金	107 件	108,238 円
8	海外救援金(無指定)	4 件	83,536 円
合 計		622 件 (1,917 件)	11,319,375 円 (46,096,500 円)
9	令和6年度NHK海外たすけあいキャンペーン寄付金	257 件	710,428 円
合 計		879 件 (2,174 件)	12,029,803 円 (46,806,928 円)

( )内は、受付開始からの累計受付件数及び受付額

② NHK海外たすけあいキャンペーンの実施

12月1日～25日まで実施した同キャンペーンの一環として、赤十字奉仕団員及び青少年赤十字メンバーから協力を得て、街頭募金活動を実施した。

支部主体で実施した商業施設3ヶ所のほか、昨年度に引き続き、地域奉仕団主体での街頭募金活動を県内7か所で実施し、多くの県民の方々からご協力をいただいた。

期 日	場 所	参 加 者
12月1日(日) 及び 12月8日(日)	県内スーパーマーケット 及び公共施設等 計10ヶ所 (支部主体3ヶ所、奉仕団主体7ヶ所)	赤十字奉仕団 78 名 青少年赤十字中・高校生メンバー 53 名 支部職員 10 名 合計 141 名

県内各地で多くの県民の方々から多くのご協力をいただいた

⑷ 国際活動に関する勉強会・セミナーへの参加

海外における災害や人道危機に対する赤十字社の活動への理解を深め、国際活動について一般の人々に説明するための知識を学ぶ勉強会に支部職員が参加した。

No.	研修・会議名	期　日	場　所	参加者
1	国際活動オンライン勉強会（Web）	9月25日（水） 10月16日（水） 11月13日（水）	日赤県支部 （山形市）	支部職員　　1 名

６ 財政基盤の強化

安定的な財政基盤を構築するため、地区分区及び関係機関の理解と協力を得ながら、活動財源である会費及び寄付金の募集を行うとともに、赤十字事業を推進するために、企業や団体と双方向での有益な関係作りを図る。

⑴ 社資（会費及び寄付金）収入状況

地区分区における社資募集については、地域に根差した社資募集を実施いただいた。

支部における社資募集については、法人社資の増強方策として、昨年に引き続き個別訪問による協力依頼を県内258社を対象に実施するなど、財政基盤の安定強化に取り組んだ。

項　目		目標額	収入額	収入率
地区分区取扱社資	一般社資	207,875,000 円	190,587,934 円	
	法人社資		3,112,510 円	
	計	207,875,000 円	193,700,444 円	93.2 %
支部取扱社資	一般社資	4,962,000 円	6,206,359 円	125.1 %
	法人社資	22,006,000 円	27,283,487 円	124.0 %
	計	26,968,000 円	33,489,846 円	124.2 %
個人住民税控除適用海外救援金			0 円	
合　計		234,843,000 円	227,190,290 円	96.7 %

⑵ 赤十字寄付金付自動販売機の設置の普及

企業や団体、地区分区に対して、売上の一部が赤十字への寄付金となる自動販売機の設置について広く普及に努めた。

区　分	設置先	設置台数	寄付額
企業・団体	11 ヶ所	18 台	211,698 円
地区分区	3 ヶ所	3 台	22,616 円
支　部	1 ヶ所	1 台	11,271 円
合　計	15 ヶ所	22 台	245,585 円

県庁1階北側出入口前
設置自動販売機

⑶ 遺贈・相続財産寄付の受入体制の強化

遺贈・相続財産寄付に関する制度の周知・普及に努めるとともに、関心のある方や希望者が必要とする事項に対し、速やかに対応し、遺贈等の受入に関する業務を円滑に推進することを目的に、令和7年3月6日に山形県司法書士会と「遺贈・相続財産寄付業務の推進に関する協定書」を締結した。

併せて、地区分区及び県内金融機関、専門機関から協力いただき、遺贈・相続財産寄付パンフレットを作成・設置し、制度の周知を図るとともに、受入体制の強化に努めた。

⑷ 本社主催等の各種研修・行事等の開催

社業振興の推進を図るため、各種会議・研修会を開催したほか、職員を派遣した。

No	行事名	期　日	場　所	派遣者
1	第1回地区分区幹事会議	4月9日（火）	山形県 自治会館 （山形市）	地区分区幹事　他　38 名 支部・センター職員　8 名 合 計　46 名
2	地区分区事務担当者会議	4月18日（木）	山形県 自治会館 （山形市）	地区分区事務委員　36 名 支部職員　10 名 合 計　46 名

No	行事名	期　日	場　所	派遣者
3	全国赤十字大会	5月15日（水）	東京都 明治神宮会館 （東京都）	理事・代議員・有功会員　5 名 奉仕団員　1 名 JRC指導者　2 名 救急法等指導員　2 名 地区分区幹事　他　9 名 支部・センター職員　7 名 合 計　26 名
4	第1ブロック支部 組織振興課長会議（ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ）	7月4日（木） ～5日（金）	日赤県支部 （山形市）	第1ブロック支部職員　9 名 支部職員　1 名 合　計　10 名
5	日本赤十字社ファンドレイジングセミナー2024（Web）	10月15日（火）	日赤県支部 （山形市）	支部職員　1 名
6	第2回地区分区幹事会議	11月18日（月）	山形県 自治会館 （山形市）	地区分区幹事　他　38 名 支部・センター職員　8 名 合 計　46 名

⑸ 赤十字関係者の集い「もっとクロス！やまがた」の開催

赤十字活動の推進のため、赤十字を支える個人並びに関係団体と情報を共有し、互いの連携強化を図りながら絆を深めるために、「もっとクロス！やまがた」を開催した。

日　　時　　令和6年11月20日（水）
会　　場　　山形国際ホテル
参 加 者　　155名
内　　容　　①活動報告会
　令和6年7月25日からの大雨に対する
　山形県支部の対応について
②活動発表
　青少年赤十字部門、救急法等講習部門
　赤十字ボランティア部門、献血活動部門
③講演
「万博と赤十字　～日赤発祥の原点は万博に在り～」 日赤本社　広報室長　岡山　晃久
④表彰伝達式
　個人　2名、法人　4社、団体　1団体

⑹ 赤十字功労者に対する顕彰

赤十字事業の推進に多大な功労のあった方々に対し、その功績を称え、顕彰を行った。

① 社資功労及び業務功労功労者に対する表彰状況

ア 社資功労　　※ 日本赤十字社有功章等贈与規則に基づく

表彰区分／功労区分	日本赤十字社社長感謝状	金色有功章	銀色有功章	支部長感謝状	支部長表彰状	合　計
社資（個人）	3	7	6		1	17 件
社資（法人）	11	12	5			28 件
合　計	14	19	11	0	1	45 件

イ 業務功労　　※ 日本赤十字社有功章等贈与規則に基づく

表彰区分／功労区分	日本赤十字社社長感謝状	金色有功章	銀色有功章	金枠支部長感謝状	銀枠支部長感謝状	合　計
役　職			1			1 件
協賛委員		2	7	13	48	70 件
奉仕者			4	2	3	9 件
献血者		23	63			86 件
青少年赤十字指導者						0 件
奉仕団						0 件
青少年赤十字加盟校	10		6	2	3	21 件
献血団体		5	5	9	7	26 件
献血推進団体		1	1			2 件
合　計	10	31	87	26	61	215 件

表彰制度について

赤十字活動資金のご協力に対しては、日本赤十字社や国からの表彰制度がございます。

■ 国の表彰

紺綬褒章（個人500万円以上、法人1,000万円以上）

厚生労働大臣感謝状（個人100万円以上、法人300万円以上）

※一次または同一年度の累計

※一時または同一年度の累計

■ 日本赤十字社社長感謝状

金色有功章受章後、
50万円以上納められた都度

■ 金色有功章　50万円以上を納められた方

（個人）

金色有功章章記　徽章　男章　女章　セト門標

（法人）

金色有功章楯　徽章　セト門標

■ 銀色有功章　20万円以上を納められた方

（個人・法人）

銀色有功章楯　徽章　セト門標

■ 特別社員　会費2,000円×10年または
一括20,000円を納められた方

特別社員章　セト門標

●セト門標贈呈の廃止について

特別社員及び金色有功章、銀色有功章の受賞者に対し、支部独自の表彰品として、セト門標を作成し贈呈しておりましたが、製造業者より令和6年度末をもって廃業することが通知されました。

別業者での作成及び別素材での作成等について検討したところですが、価格の高騰や近年門標を掲げない家庭が増えてきている（住宅事情の変化・防犯上の理由）ことや、また、セト門標より赤十字活動に資金を使ってほしいとの意見もあったことから、令和7年度以降はセト門標の贈呈は行わないこととしました。

また、称号付与にかかる門標の贈呈であることから、他の記念品による代替も行わないこととしました。

⑺ 赤十字会員等に対する弔意

長年にわたり、赤十字を支えていただいた赤十字会員等がご逝去された際に、弔詞及びローソクを奉呈し、弔意を表した。

種　類	弔　詞	無地ローソク（2本組）	絵ローソク（2本組）
地区分区への送付数	10,138部	4,167セット	7,164セット

7　広報活動

より多くの人々から、赤十字事業を正しく理解いただくため、周知と普及を図る。

⑴　広報誌「赤十字やまがた」の発行

5月の赤十字運動月間に合わせ、県民に広く赤十字運動に参加いただくため、全戸配付用広報誌を37万1千部発行し、地区分区を通じて配布した。

⑵　赤十字NEWSによる情報発信

「赤十字NEWS」を赤十字関係者に毎月送付するとともに（700部／月）、会員向け情報誌「Cross Com-BOOK」を希望する赤十字会員に対し年2回送付し、情報発信に努めた。

⑶　支部ホームページ及びソーシャルメディアによる情報発信

災害救護をはじめとする支部の取り組みや県内赤十字関係者の活動について、支部ホームページに加えて、若年層を中心としたソーシャルメディア利用者にも情報発信していくことを目的に支部専用ソーシャルメディアアカウントから、積極的に情報を発信した。

［ソーシャルメディアアカウント］

区　分	名前	ユーザーネーム	QRコード
X （旧・Twitter）	日本赤十字社山形県支部	@nissekiyamagata	
Instagram		nisseki_yamagata	

⑷　メディアを活用した広報

赤十字事業の周知と普及を図るため、県内各報道機関より協力をいただき、広報活動を実施した。

①　テレビ、ラジオによる広報

5月の赤十字運動月間及び年間を通した赤十字活動広報用CMを作成し、報道機関4社（山形放送㈱、㈱山形テレビ、㈱テレビユー山形、㈱さくらんぼテレビジョン）から放映にご協力いただいた。

また、ラジオ用CMを放送機関2社（山形放送㈱、㈱エフエム山形）から放送にご協力いただき、県民への赤十字活動への周知を図った。

12月には報道機関1社（㈱テレビユー山形）の情報番組にて、山形県支部の活動内容について紹介した。

②　新聞広告による広報

広く赤十字事業にご理解をいただくため、5月の赤十字運動月間に合わせて、支部事業の紹介及び赤十字会員への加入促進に努めた。

また、9月1日の「防災の日」に向けて、8月30日に赤十字の防災・減災にかかる取り組みを紹介した。

運動月間用CMの放映

運動月間新聞広告の掲載

⑸ レッドライトアッププロジェクトの実施

5月の赤十字運動月間に、赤十字を広く国民に周知することを目的に全国各地の赤十字施設や歴史的建造物を赤十字のシンボルカラーである赤色に照らす「レッドライトアッププロジェクト」について、本県では旧米沢高等工業学校本館（米沢市）を会場に実施した。

期　間	場　所
5月2日（木）～30日（木）	旧米沢高等工業学校本館（米沢市）

旧米沢高等工業学校本館

⑹ 赤十字フェスタ及び地域イベントの実施

県民から広く赤十字事業にご理解とご協力をいただくため、赤十字活動を実際に見て、触れて体験いただく赤十字フェスタを県内商業施設に協力いただき実施した他、他団体のイベントに赤十字ブースを出展した。

No	主催者・イベント名	期　日	場　所	参加者	
1	東根市赤十字奉仕団連合「赤十字フェスタ inひがしね」	5月5日（日）	ひがしね あそびあランド（東根市）	来場者 赤十字奉仕団員 救急法等指導員 支部・血液センター職員 合 計	500 名 15 名 2 名 7 名 524 名
2	イオンモール三川「はたらくクルマ展」	6月9日（日）	イオンモール三川（三川町）	来場者 赤十字奉仕団員 救急法等指導員 支部・血液センター職員 合 計	500 名 10 名 2 名 8 名 520 名
3	高畠町赤十字奉仕団「2024赤十字フェスタ inたかはた」	11月3日（日）	高畠町健康管理施設 げんき館（高畠町）	来場者 赤十字奉仕団員 救急法等指導員 明治安田生命職員 支部職員 合 計	150 名 12 名 2 名 5 名 3 名 172 名
4	やまのべまるごと フェスティバル	11月3日（日）	山辺中央公園（山辺町）	来場者 救急法等指導員 支部職員 合 計	200 名 2 名 2 名 204 名
5	南陽社会福祉協議会「社協福祉まつり」	11月9日（土）	南陽市 健康長寿センター（南陽市）	来場者 支部職員 合 計	30 名 3 名 33 名
6	防災フェスティバルinイオンモール天童	3月20日（木）	イオンモール天童（天童市）	来場者 救急法等指導員 支部・血液センター職員 合 計	300 名 2 名 9 名 311 名

非常炊き出しの方法を学ぶ来場者

救急法体験を行う来場者

⑺山形花笠まつりパレードへの参加

県民に対する赤十字活動のPRを目的に救急法等指導員、赤十字奉仕団員、青少年赤十字メンバー、日赤職員が参加した。

主催者・イベント名	期　日	場　所	参加者
山形花笠まつりパレード	8月6日（火）	七日町通り （山形市）	奉仕団員　15 名 青少年赤十字メンバー　2 名 救急法等指導員　4 名 血液センター職員　17 名 支部職員　9 名 合 計　47 名

花笠パレード参加の様子

⑻　赤十字広報資材（赤十字広報パック）貸出事業の実施

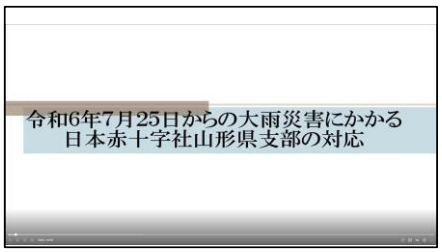
県民に広く赤十字事業へのご理解とご協力をいただくため、行事・イベント等で活用いただくための広報資材（赤十字事業紹介用パネル、救援物資サンプル等）を貸し出し、赤十字活動のPRに努めた。

No	活用行事名	期　間	貸出先
1	赤十字会員増強運動説明会	5月20日（月）～21日（火）	日赤山形市地区
2	防災×福祉×男女共同参画セミナー	6月2日（日）	日赤高畠町分区
3	日赤上山市地区代表者会及び 分区長会議	7月24日（水）	日赤上山市地区
4	川西町総合防災訓練	8月25日（日）	日赤川西町分区
5	高畠町総合防災訓練	9月22日（日）	日赤高畠町分区
6	寒河江市福祉と健康フェア	10月15日（火）～19日（土）	日赤寒河江市地区
7	山形市立第五小学校「だがしや楽校」	2月15日（土）	山形市第五地区赤十字奉仕団
8	3.11復興祈念	3月11日（火）	米沢市赤十字奉仕団

⑼　支部活動紹介動画の作成

県民に広く支部の活動について知っていただくための動画を作成した。今後の会議及びイベント等で活用し、支部活動のPRに努めていく。

タイトル　　令和6年7月25日からの大雨災害にかかる日本赤十字社山形県支部の対応
形　　式　　画像のスライドショー形式
時　　間　　5分



⑽　市町村主催イベントへの赤十字PRブースの出展

県民に広く赤十字事業へのご理解とご協力をいただくため、市町村主催のイベントに赤十字のPRブースを出展し、赤十字活動のPRに努めた。

No	活用行事名	期　間	貸出先
1	健康づくり強調月間	10月1日（火）～31日（木）	日赤鶴岡市地区

８ 血液事業

県民の健康と生命を守るため、県、市町村及び関係団体と連携しながら、献血推進啓発活動を行う。

多くの県民の皆様に献血にご協力いただき、前年度と比較し97.4%の実績となり、需要に応じた献血血液の確保に努めた。

［献血実績］ （単位：人）

	令和6年度			令和5年度			対前年比
	献血者数			献血者数			
		移動採血車	献血ルーム		移動採血車	献血ルーム	
全血献血	28,688	23,055	5,633	29,555	24,043	5,512	97.1%
成分献血	12,469	－	12,469	12,691	－	12,691	98.3%
合 計	41,157	23,055	18,102	42,246	24,043	18,203	97.4%

※血液事業の詳しい状況については、別途「令和6年度血液センター事業実施状況」をご参照ください。

令和7年３月 31 日現在

令和６年度　血液センター事業実施概要

１　血液製剤の供給実績

当センターでは、医療機関に安定的に血液製剤を供給するため、３日分の在庫を保有し、東北ブロック血液センターから１日に２回定時搬入をする体制をとっている。

血液内科及び心臓血管外科での手術等の減少により、赤血球製剤、血漿製剤、血小板製剤の使用がいずれも減少し、前年度比 93.1%となった。

区分	令和５年度実績（単位）	令和６年度実績（単位）	対令和５年度比
赤血球製剤	53,850	50,538	93.8%
血漿製剤	17,276	14,463	83.7%
血小板製剤	64,810	61,559	95.0%
合　計	135,936	126,560	93.1%

※単位換算について

赤血球製剤：「200mL 献血由来」を１単位、「400mL 献血由来」を２単位として換算

血漿製剤：「200mL 献血由来」を１単位、「400mL 献血由来」を２単位、「成分献血由来」を４単位として換算

血小板製剤：1 単位 20mL で換算

２　献血実績

新型コロナウイルス感染症５類移行に伴い、移動採血では、通常の献血実施形態に戻ってきている。また、献血ルームにおいては、コロナ禍で献血を控えていた献血者が戻りつつあることから、葉書やメール、SNS を活用し協力依頼を行い、多くの県民の皆様からご協力をいただき、前年度比で 97.4%の実績となった。

(1) 献血者数

（単位：人）

	令和６年度			令和５年度			対令和５年度比
	合計	移動採血車	献血ルーム	合計	移動採血車	献血ルーム	
全血献血	28,688	23,055	5,633	29,555	24,043	5,512	97.1%
200mL 献血	765	264	501	792	305	487	96.6%
400mL 献血	27,923	22,791	5,132	28,763	23,738	5,025	97.1%
成分献血	12,469	－	12,469	12,691	－	12,691	98.3%
血漿	7,161		7,161	7,085		7,085	101.1%
血小板	5,308		5,308	5,606		5,606	94.7%
合計	41,157	23,055	18,102	42,246	24,043	18,203	97.4%

(2) 重点項目

医療機関からの需要及び輸血による安全性向上のため、400mL 献血の推進を図るとともに、輸血用血液を安定的に確保するため、移動採血の稼働効率化を図ることを重点項目としており、400mL 献血率は、目標値 97.7%に対し 97.3%、移動採血車１稼働あたりの献血者数は、目標値 45 人以上に対し 43.4 人となった。

ア 400mL 献血率

目標値	全血献血者数	200mL 献血数	400mL 献血数	400mL 献血率
97.7%	28,688 人	765 人	27,923 人	97.3%

イ 移動採血車１稼働あたりの献血者数

目標値	献血者数	稼働数	１稼働あたりの献血者数
45 人	23,055 人	531 台	43.4 人

(3) 定点献血等の実施状況

定点献血会場として、大型ショッピングセンター等で定期的な献血を実施し、前年度比 96.9%の献血実績となった。

（単位：人）

会　場	実 施 日	令和6年度			令和5年度			対令和5年度比
		回数	献血者総数	1稼働あたり	回数	献血者総数	1稼働あたり	
イオン山形北店	年4回	4	154	38.5	4	194	48.5	79.4%
イオンモール山形南	年4回	4	172	43.0	4	177	44.3	97.2%
イオンモール天童	年12回	16	833	52.1	15	747	49.8	111.5%
イオン東根店	奇数月第1土曜日	9	467	51.9	10	512	51.2	91.2%
イオン米沢店	年７回	8	408	51.0	8	410	51.3	99.5%
鶴岡協同の家こぴあ	毎月第2土曜日	12	715	59.6	12	704	58.7	101.6%
イオンモール三川	毎月第4土曜日	13	771	59.3	16	903	56.4	85.4%
計		66	3,520	53.3	69	3,647	52.9	96.5%
陸上自衛隊神町駐屯地		5	192	38.4	4	184	46.0	104.3%
合計		71	3,712	52.3	73	3,831	52.5	96.9%

※臨時実施含む

(4) 原料血漿の確保実績

血漿分画製剤の原料となる血漿は、安全性の確保並びに倫理的な見地から、その全てを国内の献血でまかなう方針が国から示されており、国内自給率100%達成に向けて割り当てられた目標量を確保した。

令和7年3月末時点（令和6年4月～令和7年3月累計）

原料血漿確保目標	確保実績	実績／目標量
78,015 L	80,907 L	103.7%

※広域事業運営体制のため、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島6県分の合算の数値

3　献血の普及啓発

(1) 各種団体等との連携

ア ライオンズクラブ国際協会３３２－E地区献血推進研究会

実施日	実施会場	内　　容
11月25日 （月）	パレスグランデール （山形市）	・活動優秀クラブ表彰及び活動事例報告 ・各クラブ年間活動実施計画及び報告 ・「献血1万人運動」の更なる推進に関する協議 ・若年層献血者の増加に向けての協議 ・新入社員を対象とした献血協力に関する協議

県内各ライオンズクラブでは「献血1万人運動」を目標の1つに掲げ、次の通り献血推進活動に積極的に協力いただいている。

（ア）県内商業施設における定点献血及び街頭献血での勧誘、記念品進呈
（イ）高等学校及び大学等、若年層献血者に対する記念品進呈
（ウ）クラブ会員所属企業における献血及び記念品進呈
（エ）各ライオンズクラブ主催での献血実施
（オ）献血ルームでの献血協力

イ 献血セミナーの開催

若年層の献血者確保を図るべく、将来の献血を担う高校生等や子育て世代の親子を対象に、血液や献血に対する正しい知識を学んでもらうことを目的に、献血セミナーを実施した。

	小学校	高等学校	大学 専門学校	その他	計	令和５年度
実施回数	3回	52回	38回	18回	111回	104回
参加人数	30人	10,774人	1,584人	425人	12,813人	11,612人

ウ 学生ボランティアの育成

若年層の献血者を確保するため、同年代に対し献血の必要性を呼びかけてもらうことを目的に形成している県内の大学・短大・専門学校の学生を中心としたボランティア組織を拡充・活用し、学生献血推進ボランティアによる献血セミナーにも取り組んでいるほか、各校内での推進活動及びＳＮＳでの広報活動等を展開した。

【学生献血推進ボランティア】

山形大学、山形県立保健医療大学、山形県立米沢女子短期大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大

山形県学生献血サマーキャンペーン 2024
（酒田駅前交流拠点施設ミライニ）の様子

献血セミナーの様子
（県立寒河江高校）

(2) 広報及びキャンペーン等活動

ア 広報活動

献血者確保のため、広く県民に献血の普及啓発を図るべく、ホームページを通じ積極的に情報発信するとともに、県内報道機関への情報提供及び取材要請を実施した。

- ホームページによる情報発信（通年）
- ＳＮＳ（Ｘ）による情報発信（通年）
- ＴＨＩＮＫ！献血（令和６年度献血推進方策）
  テレビ、ラジオ、WebCM の放送、交通広告での広報
  （令和６年６月３日～令和７年４月 30 日）
- 映画「ディア・ファミリー」タイアップキャンペーン
  映画館でのＣＭ放映、来場者へのチラシ配布、ＳＮＳ（Ｘ）キャンペーン
- 「はたちの献血」キャンペーン
  テレビ、ラジオ、WebCM の放送（令和７年１月１日～令和７年２月 28 日）
- 献血普及啓発テレビ CM「折り紙チッチ」篇の制作・放送（令和２年３月から継続）
- 県内各報道機関への献血予定情報の提供（通年）
- 県内各報道機関へのプレスリリースの発信（通年）
- モンテディオ山形と連携した広報活動の展開（通年）
- パスラボ山形ワイヴァンズと連携した広報活動の展開（通年）
- 県内市町村主催二十歳の祝賀式における広報資材の配付（随時）

イ 各種キャンペーン等の展開

各種キャンペーン及びイベントを実施し、献血協力を呼びかけた。

・全国キャンペーン

実施月	名　　称
4 月	『つなげ、その「ち」から』（9 月～4 月）
	シャレン！で献血（4 月～12 月）
	※明治安田生命保険相互会社、公益社団法人日本プロサッカーリーグ及び日本赤十字社の３者連携による実施。 全国各地のＪリーグホームゲーム及び献血ルームにおいて献血を展開。 ＜県内の実施＞ 5 月 18 日：ホームゲーム献血（モンテディオ山形×ブラウブリッツ秋田戦） 10 月 27 日：ホームゲーム献血（モンテディオ山形×ロアッソ熊本戦） 4 月 1 日～12 月 30 日：献血ルームＳＡＫＵＲＡＭＢＯにてキャンペーン開催
6 月	ＴＨＩＮＫ！献血（6 月～4 月）
	世界献血者デー（6 月 14 日） ※ ABO 式血液型を発見し、ノーベル生理学・医学賞を受賞したカール・ラントシュタイナー氏の誕生日
7 月	愛の血液助け合い運動
8 月	コミックマーケット 104 献血応援イベント
12 月	全国学生クリスマス献血キャンペーン２０２４
	コミックマーケット 105 献血応援イベント（12 月～1 月）
1 月	はたちの献血キャンペーン（1 月～2 月）

血液センター主催

やまがた春の献血キャンペーン 2024	令和 6 年 3 月 1 日（金）～4 月 30 日（火）
春期の献血血液確保の強化、及び 10 代～30 代の若年層献血者に対する推進を図るため、10 代～30 代の献血者に対し、オリジナル記念品を進呈。	
山形県学生献血サマーキャンペーン 2024	令和 6 年 8 月 3 日（土）～24 日（土）内の一部街頭献血会場にて開催
夏場の献血者確保を目的に、県内の一部街頭献血会場にて、献血にご協力いただいた方に、学生ボランティアが企画したオリジナル記念品を進呈した。	
若い力で未来にエールを！！ 秋の３９献血キャンペーン	令和 6 年 10 月 1 日（火）～11 月 30 日（土）
秋期の献血血液確保の強化、及び 10 代～30 代の若年層献血者に対する推進を図るため、10 代～30 代の献血者に対し、オリジナル記念品を進呈。	

東北ブロック×映画「はたらく細胞」 タイアップキャンペーン ※東北６県合同企画	令和６年 12 月１日（日） ～令和７年１月 31 日（金）
献血 Web 会員サービス「ラブラッド」会員のさらなる増加を図るため、献血会場にて 「ラブラッド」に新規会員登録いただいた方に、オリジナル記念品（血液バッグ型エコカイロ）を進呈した。	
つなげ、東北の「ち」から。 米（マイ）献血予約キャンペーン ※東北６県合同企画	令和７年２月 15 日（土） ～令和７年３月 31 日（月）
献血の予約率向上、及びラブラッド新規登録者のさらなる増加を図るため、ご予約のうえ献血にご協力いただいた方、または、献血会場にてラブラッド会員に新規登録していただいた方に東北６県産のブランド米を進呈した。	

・献血ルーム SAKURAMBO 主催

成分献血次回予約キャンペーン（通年）	令和６年４月１日（月） ～令和７年３月 31 日（月）
平日の成分献血者確保及び献血事前予約率の向上を目的に、献血終了後、次回の献血予約（平日の成分献血）をいただいた方へ、記念品を進呈した。	
「プラス１！全血献血キャンペーン ～1 年以内に全血献血をもう１回！～」	令和６年６月１日（土） ～令和７年３月 31 日（月）
全血献血にご協力いただいた方へメッセージカードを手交し、次回このカードを持参し献血協力いただいた方に記念品を進呈した。	
献血ルームでクールシェア!! Summer 献血キャンペーン	令和６年７月１日（月）～9 月 30 日（月）
夏の暑い時期に、献血ルームを涼める場所として PR し、献血者に快適な場所を提供する「クールシェア」を展開。また、期間中の平日にご予約で献血に協力いただいた方へ、記念品として「冷やしシャンプー」「そうめん」等を進呈した。	
モンテディオ山形応援キャンペーン 「モンテ応援デー」	令和６年２月 27 日（火）～11 月７日（木）
毎週火曜日と木曜日を「モンテディオ山形応援デー」とし、特に使用期限の短い血小板製剤を安定的に医療機関に届けられるよう平日の成分献血の協力を求め、期間中毎週火曜・木曜の成分献血者へお菓子を進呈した。延べ協力者数 2,218 人。	
夏休みの自由研究に!! けんけつルーム親子で見学ツアー	令和６年８月５日(月)・８日（木）

小学生向け夏休みの自由研究に活用できるよう、親子で献血ルームの見学とけんけつセミナーを実施した。当日は、献血ルームのほか血液センター供給部門ともオンラインで結び、医療機関へ血液を届ける役割部門の理解を深めた。親子 11 組が参加した。

献血ルーム SAKURAMBO イメージソング お披露目 LIVE	令和6年 8 月 17 日(土) 会場:エスパル山形(山形市香澄町)

「献血ルーム SAKURAMBO イメージソング」は、献血ルームの認知度向上および若い世代を中心とした県民への普及啓発を図るため、東海大学山形高等学校の生徒会・軽音楽部と山形県出身のシンガーソングライター三浦コースケ氏が共同で作成した。

作詞には東海大山形高等学校が携わり、楽曲は三浦コースケ氏が担当した。

当日は、イメージソングの演奏、三浦コースケ氏のソロステージ、献血クイズコーナーの約 20 分のステージを 2 回実施した。

県立図書館×献血ルーム SAKURAMBO **連携イベント 本の森講座 図書館で学ぼう！いのちを救う「けんけつ」**	令和 7 年 1 月 4 日(土)～2 月 28 日(金) ※親子向けイベントは 1 月 11 日(土)のみ

県立図書館を会場として、一か月間の企画展を実施し献血の普及啓発および献血ルーム SAKURAMBO の認知度向上を図った。また、イベントでは主に子育て世代の親子を対象とし、供給部門と連携した「オンライン見学ツアー」を含む献血セミナー、手作りの献血チラシづくりワークショップを実施した。 ご家族40組参加。

山形調理師専門学校連携企画 **献血で愛をとどけよう！** **バレンタインデーキャンペーン**	令和 7 年 2 月 14 日(金)～28 日(金)

冬季期間における献血者の確保及び県民に対する献血の普及啓発、特に記念品の調理を担当する専門学生と同じ若い世代への献血推進を目的として実施した。バレンタインデーに合わせ、山形調理師専門学校との連携により、同校学生が鉄分の多いレーズンなどを加えて作った「応援クッキー」（1袋2個入）を、期間中ご協力いただいた800名にプレゼントした。

けんけつルーム親子で
見学ツアーの様子

献血ルームイメージソング
お披露目 LIVE

(3) 複数回献血協力及び献血予約の推進

複数回献血協力の推進を図るため、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録を勧奨し、新規登録者数は前年度比 111.0%である。

また、医療機関からの需要に応じた輸血用原料血液の安定確保や、献血される方の密集・密接回避等を目的に、「ラブラッド」の機能である「献血予約」、「事前 Web 問診回答機能」の活用を推進した。

令和6年度 新規登録者数	令和5年度 新規登録者数	対令和５年度比	県内 登録者実数
5,099 人	4,595 人	111.0%	33,643 人

4　調査、研究事業の推進

輸血医療の質的向上を目的とした調査研究事業を推進し、適正かつ安全な輸血療法の向上をめざし、県と合同で山形県の血液使用量の 95.6%以上を占める 26 医療機関とともに県合同輸血療法委員会を開催した。

(1) 山形県合同輸血療法委員会での取り組み

ア 廃棄血削減に関する取り組み
イ 適正な輸血の実施に向けた取り組み
ウ 地域連携を基盤とした取り組み

(2) 委員会の開催と学会等への参加

実施日	名　　称	場　　所	摘要
5 月 30 日（木） ～6 月 1 日（土）	第 72 回日本輸血・細胞治療学会総会	京王プラザ ホテル新宿及び Web 開催	血液センター職員 現地 1 名、 Web3 名参加
7 月 5 日（金）	第 5 回山形県合同輸血療法委員会 看護師部会	山形県赤十字 血液センター	部会員 10 名、 事務局 2 名参加
7 月 8 日（月）	第 27 回山形県合同輸血療法委員会	Web 開催	委員 36 名、 事務局 3 名参加
7 月 23 日（火）	令和 6 年度山形県合同輸血療法委員会 臨床検査技師部会	Web 開催	部会員 12 名、 事務局 2 名参加
9 月 14 日(土)	第 125 回日本輸血・細胞治療学会 東北支部例会	東北大学医学部 星陵会館	血液センター職員 4 名参加
11 月 12 日(火) ～14 日（木）	第 48 回日本血液事業学会総会	福岡国際会議場 及び Web 開催	血液センター職員 現地 8 名、 Web1 名参加
11 月 23 日(土)	山臨技　輸血細胞治療部門　研修会	山形大学医学部 学生実習講義棟	講師として 1 名参加

12 月 7 日(土)	第 28 回合同輸血療法委員会 及び 第 11 回山形輸血療法セミナー	山形県赤十字血液センター及び Web 開催	現地 9 名、 Web 参加 39 名、 事務局 6 名参加
12 月 11 日(水)、18 日(水)	山形県合同輸血療法委員会看護師部会 輸血療法に関する看護師研修会	Web 開催	看護師等 282 名、 事務局 3 名参加
2 月 12 日(水)	山形県合同輸血療法委員会看護師部会主催、臨床検査技師部会・細胞治療部門共催 看護師と臨床検査技師との合同学習会	Web 開催	看護師・臨床検査技師 144 名、 事務局 2 名参加
3 月 15 日(土)	第 126 回日本輸血・細胞治療学会　東北支部例会　及び　令和６年度赤十字血液シンポジウム東北	あきた芸術劇場ミルハス（シンポジウムのみハイブリッド開催）	血液センター職員 現地 4 名、 Web1 名参加

５　研修の受入

輸血医学事業の一環として、山形大学医学部生等を対象に、血液事業及び輸血医療に関する研修を実施した。

実施月	名　　称	医療機関等	人数
通年	学外臨床研修	山形大学医学部	98 名
5 月	認定輸血検査技師制度 指定研修プログラム	検査技師	2 名
6，7，10 月	初期研修医研修	日本海総合病院	3 名

６　造血幹細胞提供支援の実施

造血幹細胞提供支援機関として、骨髄ドナー登録希望者に対し、事前説明及び登録受付を献血会場にて実施した。

令和６年度新規登録者数	県内実登録者数
540 人	8,553 人

７　血液センターの移転計画

血液センターの移転場所として、山形県農業共済組合（NOSAI 山形）跡地（山形市落合町字千歳 95-1 外）の土地及び建物を取得し、改修して使用することとした。また、駐車場及び冬期の除雪スペースとして、隣接する農地を併せて購入した。

移転にかかる設計及び建築（改修）工事については、令和５年度から令和６年度の計画とし、令和７年３月に竣工し、６月に開設予定としている。

時　期	項　目
令和５年３月	不動産契約（NOSAI 山形跡地及び隣接農地）
令和５年６月	不動産登記（NOSAI 山形跡地）
７月	設計監理業者契約
９月	農振除外及び農地転用許可 不動産登記（隣接農地）
令和６年４月	改修工事施工業者契約
５月～令和７年３月	改修工事施工
令和７年３月	竣工
令和７年６月	開設